

「新たな次代の幕開け」



昨年の初優勝で自信を掴んだ！ #45



レンタカー無事返却(^_^) #7



今年のバージョンアップポイントはテールとメット

例年より約一ヶ月遅れて開幕したK 耐久東海シリーズ、今季で11シーズン目を迎える。昨年の冒頭で紹介したのはWBC 侍ジャパンだったが、今年はなんといっても大谷選手のメジャーでのデビュー。もちろん始まったばかりだが、その活躍は連日のニュースを見たとおり。マンガでこんな主人公描いたら陳腐な脚本といわれるくらいの二刀流っぷり。これからどんなシーンを歴史に刻んでいくのか本当に楽しみ。

主人公という意味ではレースの場合、みんなが主人公、ドライバーだけではなくスタッフや家族の応援があつてのレース。11年目の新たな歴史の1ページを開くのは他の誰でもない、あなた一人ひとりに違いない。

4月なのに夏日という、しかし湿度は低い清々しいの開幕戦のスパ西浦、主人公たちが織りなす物語に注目。

「NN-B」クラス（軽NAのノーマルクラス ビギナー）

今年も基本的には大きなルール変更はない、一昨年新設された、初心者を対象とした「ビギナークラス」もすっかりおなじみとなってきた。昨年より適応されたアンダータイムペナルティも理解されてきているかと思う。ビギナーらしく、フレッシュな戦いに期待。

開幕戦では2台の出走。

■予選

予選トップは#45「インフィニティーアルト」1' 11.749、昨年最終戦に初優勝をして今回は自身を持って望む。

2位は#7「セバンレーシングアルト」1' 17.137、今年用のマシンは練習走行でトラブルを起こしたため、昨年#6「ローッキーレーシング」のマシンを借用。

■序盤

予選トップの#45「インフィニティーアルト」がスタートからリード、じわじわと差を広げる。最初のスティントでは早くも1Lapのリードを広げ、レースをコントロール。

なんとか食らいつきたい#7「セバンレーシングアルト」だが、本来予定していたマシンとは勝手が違うか、思うようにペースが上げられない。



Race Report

GT-CAR PRODUCE

■中盤

中盤でもしっかりトップをキープする#45「インフィニティーアルト」、さらにリードを広げる。ここまではほぼ満点のレース展開。

#7「セバンレーシングアルト」も大きなトラブルはないものの、やはりスピードの差でトップを追いかけられない。ただ今回の目標は「しっかりと(マシンを)返却する」というチームコメントからもわかるように、粘り強く走り抜く作戦のようだ。

■終盤

#45「インフィニティーアルト」は SC ランなどの間も、2 位とのギャップをコントロールしながらフィニッシュに向かう。ピットインのタイミングでもポジションをチェンジされないマージンは築いたようだ。

#7「セバンレーシングアルト」も自分のペースをキープ、時にスピンする場面も見られたが、無事再スタートで事なきを得る。どうやらこのオーダーでチェッカーのようだ。

■最終結果

チェッカーまでトップをキープし、2 位とのギャップをコントロールした#45「インフィニティーアルト」が 135Lap を走りきりゴール！スタートからほとんどポジションを譲らないほぼパーフェクトなレースを見せた。

と思ったところ、なんとアンダータイムがあり周回数減算のペナルティ、その周回数は 5 周減。2 位の#7「セバンレーシングアルト」は 129Lap、わずか 1Lap 差でポジション変わらずという結果に。

■総評

アンダータイム規定により 5 周減算された#45「インフィニティーアルト」、最後に少しヒヤッとしたが終わってみれば、昨年最終戦に続き 2 連勝。エキスパートクラスに遜色ない走りができるようになったとポジティブに捉えることも…ステップアップするにしてもやはりタイトルは欲しいぞ。

#7「セバンレーシングアルト」、本来予定していたマシンではない影響もあったか、優勝には一歩及ばず。それでもこちらも昨年最終戦の 2 位に並ぶ自己最高位。どうやら今季はこの 2 チームがチャンピオン争いの中心となるようだ。



さあ狙うはチャンピオン！



ビギナークラス

「NN-E」クラス（軽NAのノーマルクラス エキスパート）

「エキスパート」クラス。マシン規定ははビギナーと変わらないながらも、タイムは速く、ビギナーからステップアップしてくるチーム力も多い。

今開幕戦では 8 台がエントリーで、K 耐久カテゴリーの中では最多参加台数。

#149「K4EP アルト 149R」チームは昨年のビギナークラスチャンピオンで同最終戦からステップアップ。また#29「スーパーアルトバイエル」チームは、プログラムではビギナークラスだが、当日エントリー変更でエキスパートクラスに。

その他#5「プロジェクト K」チームは昨年のチャンピオン、#10「FASTOUT」チームなどまさにエキスパート揃いのクラス。

■予選

予選トップは#55「STC 中部 Hane's トウデイ」1' 09.189。昨年までのマシンをビートからスイッチ、「ベース車は安かったけど、床がボロだった(´・ω・`)」とのコメント、まずは表彰台を狙いますと意気込みを語る。2 位は#5「Baden PROJECT K アルト」1' 09.384、なんと 2 年連続のチャンピオンながら最高位は 2 位という記録を更新中、今年はなんといいっても勝ちたいぞ！

3 位#10「FAST OUT 最速アルト V」1' 09.496、昨年はタイトルこそなかったが、2 勝を挙げその名の通り最速をアピール。

4 位#149「K4EP アルト 149R」1' 09.908、今年からエキスパートクラスに本格参戦。昨年最終戦の 3 位である程度の手応えは掴んでいる様子、マシンは足回りを見直したとのこと。目標は#108 ですと語る。

5 位#24「くま七アルト」1' 10.279、昨年 TC にエントリーしていたチームがマシンとクラスを換えて参戦。「マシンは減量成功、ドライバーは増量成功」だって～

6 位#108「リターンレーサーアルト」1' 10.380、昨年最終戦で初出場初優勝の快挙を遂げた「オールドルーキー」がリターンしてきた。

7 位#29「スーパーアルトバイエル」1' 10.854、ビギナーからエキスパートにエントリー変更、どんな走りを見せるか。

8 位初参加#78「フロムセブン チープアルト」1' 17.915、フロムセブンは京都の愛好家クラブ、今回 K 耐久には初参加。岡山シリーズではチャンピオン経験もある彼らだが「まだ、マシンができたばかりなので、しっかり走りたい」とのこと。

■序盤

予選トップの#55「STC 中部 Hane's トウデイ」が首位キープ。クラス唯一の旧規格車なので、後々少しばかりきつくなる。目標である表彰台を狙っての序盤の走行。2 位#5「Baden PROJECT K アルト」、3 位#10「FAST OUT 最速アルト V」、4 位#29「スーパーアルトバイエル」、5 位#108「リターンレーサーアルト」、6 位#149「K4EP アルト 149R」とここまで同一周回で続きトップグループと言っていい。

第 2 集団として 7 位#24「くま七アルト」、8 位#78「フロムセブン チープアルト」。

■中盤

中盤で上がってきたのは#5「Baden PROJECT K アルト」、首位を走行。#10「FAST OUT 最速アルト V」が同一周回で 2 位。

3 位以下が第 2 集団を形成。3 位#55「STC 中部 Hane's トウデイ」、4 位#29「スーパーアルトバイエル」、5 位#149「K4EP アルト 149R」くらいまでが 1～2 周回の間に並び抜け出すチャンスを伺う。

6 位#108「リターンレーサーアルト」、7 位 24「くま七アルト」。8 位#78「フロムセブン チープアルト」はペナルティもあり、周回数が伸びてこない。



予選 7 位から逆転勝利！ #29



惜しくも 2 位 #5



こちらも秒差のポディウム！ #10



唯一の旧規格車 今回は一步届かず #55



しぶとくポジションアップ #24

Race Report

GT-CAR PRODUCE

■終盤

最後まで混戦、相変わらず首位は#5「Baden PROJECT K アルト」だが、逃げ切りを図るにはまだ早い。

2 位には 1Lap 差で#29「スーパーアルトバイエル」、3 位には同じく#10「FAST OUT 最速アルト V」がピッタリと追走。

4 位には#55「STC 中部 Hane's トウデイ」がさらに 1Lap 差でマーク、目標とする表彰台までは後 1 台、旧規格ハンデがあるが持ち前のスピードでポジションアップを狙いたい。

実はこのあたりも大混戦で 5 位#108「リターンレーサーアルト」、6 位#24「くま七アルト」あたりまでジャンプアップの可能性も。

7 位#78「FROM SEVEN チープアルト」には、ホワイトラインカットのペナルティと、その履行遅れにより 4 週の減算の裁定が下り、上位争いには届かないが、一つでも上の順位へとチャレンジ。

意気込んでステップアップしてきた#149「K4EP アルト 149R」だったが、ミッショントラブルで、残念ながらリタイヤとなった。



こちらもしぶとく走ってポイントゲット #108



初参加はどうでしたか #78



惜しくもマシントラブル #149



エキスパートクラス 初優勝おめでとう！



Race Report

GT-CAR PRODUCE



予選から意識しますよね、そりゃ！



もちろん決勝も！！



逃げ切りを図ったが…



逃げ～！！

■最終結果

逃げ切りを図る#5「Baden PROJECT K アルト」だが、最終スティントで#29「スーパーアルトバイエル」が捉える。残り 30 分、同一周回でのバトルが続いたが、最終的に前にいたのは#29「スーパーアルトバイエル」！！26 秒強の差で見事チェッカー。

惜しくも 2 位は#5「Baden PROJECT K アルト」、3 位は#10「FAST OUT 最速アルトV」。ここも最終スティントは同一周回バトル、追いつがる#55「STC 中部 Hane's トウデイ」を振り切ったのポディウム。こちらの差はなんと 3 秒弱！！

5 位は#24「くま七アルト」、途中からしぶとく順位を上げてのフィニッシュ。

6 位#108「リターンレーサーアルト」、昨年最終戦のようなサプライズはなかったが無事完走。7 位はじめての K 耐久に戸惑う部分もあったが、そこはさすがの実力派、しっかりと完走してみせた。

■総評

優勝争い、表彰台争いともに僅差の大バトル、これぞ NN-E クラスの醍醐味！どのチームにもチャンスがあるが、ミスは許されないというレースの面白さを詰め込んだクラスと言える。

また、ビギナーからステップアップ組の澁刺とした走りも楽しみだ。



エキスパートクラス





今年もやはり王者勝ち… #25

NCクラス（軽NAのクロズドクラス）

昨年は絶対王者#25「アカミネコマル 2トゥディ」が…と繰り返すこと7シーズン！！まさに孤高の王者はその未到の領域をV7へと伸ばした。あまりに軽々しくレジェンドとはいいたくないが、K 耐久においてはまぎれもなくレジェンドだ。そしてその伝説はいまも続いている。

レジェンドを倒すチームが現れるのか、はたまたレジェンドがその伝説を1ページ増やすのか。

開幕戦は王者の宿命のライバル#66が不在なのは少々寂しいが、初参加も含めて全4チームが参加。



自己最高位を更新！！ #225

■予選

予選トップは、#25「アカミネコマル 2トゥディ」1' 07.969。レース直前にエンジンのOHが済んだばかり、急遽ナラシをして開幕戦に望んだレジェンド、貫禄のクラストップ。

2位は#58「KPR☆Adiot Toude」1' 09.994。初参加チーム、「さびさびですみません、まずは完走で」と奥ゆかしいコメント。

3位#35「美濃加茂ポンコツ TODAY」1' 12.364、こちらも初参加。「まずは完走をめざします」とこちらも控えめな目標を口にするが、闘志はアツい。

4位#225「ぐっちちブラウニートゥディ」1' 14.263、予選は彼らにしては少々不本意か。決勝での巻き返しを狙う。

■序盤

やはり序盤から#25「アカミネコマル 2トゥディ」のペース、ガッチリ掴んで離さない。スイスイと周回数を伸ばしてゆく。

2位は#58「KPR☆Adiot Toude」、なんとか1Lap差で食らいついていく。「まずは完走を」とコメントをいただいたが、ここまではそれ以上の健闘。

3位#35「美濃加茂ポンコツ TODAY」、こちらも同じく控えめなコメントとだが、うまくスタートを切れたようだ。

4位は早々とピット・インしてきた#225「ぐっちちブラウニートゥディ」、有力な対抗馬のはずだが、ここまではあまりスピードに乗れていないか、ここはピット戦略で流れを引き寄せたい。



初参加で3位表彰台！ #58

■中盤

中盤は完全に王者のターン、1分07秒台前半にまでタイムを伸ばし後続をさらに引き離しにかかる。O/Hしたエンジンにも問題はなさそうで、レースを支配。

一方2位以下は混戦、#58「KPR☆Adiot Toude」が一歩リードするものの3位#225「ぐっちちブラウニートゥディ」もペースアップ、序盤は1分10秒が切れなかったのだが、ここにきて08秒台を記録してグイグイ差を詰めてくる。

4位#35「美濃加茂ポンコツ TODAY」はここが踏ん張りどころとみたか、09秒台前半のタイムを出すなど、チームもわかっている。



表彰台まであと一歩 #35

Race Report

GT-CAR PRODUCE

■終盤

レースも終盤、盤石の態勢で#25「アカミミネコマル 2 トウディ」は最終スティントへ。

一方2位はまだまだわからない！ #225「ぐっちっちブラウニートウディ」はとうとう2位と同一周回まで詰めてきた。その2位を#58「KPR☆Adiotトウディ」は守れるか。ちなみにここまでの最速Lapは#225「ぐっちっちブラウニートウディ」は08秒674、#58「KPR☆Adiotトウディ」は08秒569とほぼ互角、さあどうなる！？ 4位#35「美濃加茂ポンコツTODAY」、少し離されたか。

■最終結果

今年の開幕戦を制したのは、またもや#25「アカミミネコマル 2 トウディ」！とまたもこのフレーズ。とある強いボクサーを評して「ロマチェンコ勝ち」と解説者が名付けたが、まさに「ネコマル勝ち」ともいえる、完璧なレース運び、恐れ入った。大混戦の2位は#225「ぐっちっちブラウニートウディ」が0秒261！！の差でチェッカー！おそらくK耐久史上最も僅差のバトルではないか。

3位は#58「KPR☆Adiotトウディ」悔しいが、全カバトルに違いない。4位#35「美濃加茂ポンコツ TODAY」もしっかり完走。

■総評

絶対王者といえども、しっかりとマシンの整備をして、ナラシまできっちりとやってこそその王者だと、そして勝てる時にはしっかりと勝つという。王者にしたら普通のことかも知れないがそれこそが王者ということなのだろう。

しかし2位争いもシビレた！最後の最後チェッカーを受けるまでがレース、感動させてもらった。s



バンパーの色も変わった



このクラスは全車が Today



見よこの差を！！ 0秒261！！



NC クラス



追い上げはお見事！ 2位ゲッツ！！



今年の開幕を制したのは #69



今年は2位発進 #93



昨年の開幕戦も3位 #28



今回は上位に届かず #330

TCクラス（軽過給機のクローズド）

昨年は新規格ハンデが撤廃された影響で、史上最大の混戦に。その中でも#330「RACING FAN」が1勝ながらもシーズンをうまくまとめて見事V3、レース巧者ぶりを見せたシーズンだった。その#330、今年変わったことに？という質問に、「みんな歳を一つとった、ドライバーの最年長は72(歳)だよ」と…マジっすか！！、私も含めてまだまだひよっこだなと思いました。

そんな人生の大先輩を含めた全6チームが、この開幕戦に集った。

■予選

まずは予選、実は朝のフォーマットも、今年は少しかわっている。予選を含めたプラクティスの時間が5分ほど短くなった。これにより、セッティングなどに影響はどうか。

予選をとったのは#330「DIXCEL コンパーノミラ」1'06.423、予選ではただ1台1分06秒台に入れてきた。

2位には#93「藤枝マリンダイビングアルト」1'07.161、05秒台で周回する力を持つ彼らがこの位置につける。昨年のランキング3位。

3番手#69「モモヤマレーシングアルト」1'07.250、昨年の第4戦で念願の初優勝を飾った彼ら、今年はいよいよチャンピオンを狙う。

4番手#28「KHK VIVIO」1'08.293、昨年は2勝を挙げたにもかかわらず、わずか2P差で逃げ切れられ惜しくもシリーズ2位となった。今年狙うはタイトル！！

5番手#112「白須賀会カプチーノ」1'09.451、昨年の第3戦以来の参加、どんな走りを見せるか。

6番手#82「東海☆麗神愚 KTM カプチーノ」1'15.137。こここのところ孤軍奮闘といった感じが多かったが久しぶりのカプ2台、やはり”同志”がいると楽しい。

■序盤

序盤から接戦となったこのレース、予選トップの#330「DIXCEL コンパーノミラ」を先頭に、2位#69「モモヤマレーシングアルト」、さらに3位#93「藤枝マリンダイビングアルト」までが同一周回でレース序盤から競り合う。

4位#28「KHK VIVIO」もそれほど離れずつけており、優勝さらには表彰台争いが序盤から激しくなっている。

第2集団はFRのカプチーノ対決、#82「東海☆麗神愚 KTM カプチーノ」が少し先行し、#112「白須賀会カプチーノ」が追う展開。

■中盤

中盤でトップを行くのは#69「モモヤマレーシングアルト」、同一周回で2位#330「DIXCEL コンパーノミラ」、1Lap遅れで3位#28「KHK VIVIO」が続く。

一旦ピットストップで下がった4位#93「藤枝マリンダイビングアルト」もすぐさま追撃体制を整える。

カプチーノ対決は#82「東海☆麗神愚 KTM カプチーノ」が先行する。

#112「白須賀会カプチーノ」はエンジン不調の兆候が現れており、何かのトラブルに見舞われている様子…

Race Report

GT-CAR PRODUCE

■終盤

昨年新旧規格ハンデ統一から接戦が続く TC クラス。今回も接戦で、残り 1 時間で、#69「モモヤマレーシングアルト」が首位、2 位から 4 位までは同一周回！ 2 位#28「KHK VIVIO」、3 位#93「藤枝マリンダイビングアルト」、4 位#330「DIXCEL コンパノミラ」の順 2 位から 4 位は 22 秒ほどの差となっており、どこかが抜け出して首位争い、そしてどこかが表彰台争いから脱落という局面。それに続く 5 位は#82「東海☆麗神愚 KTM カプチーノ」。

トラブルの恐れがあった#112「白須賀会カプチーノ」はスローダウンからピットに。オルタベルトが切れた模様、修復作業を行い遅れたものの、なんとかレース復帰、完走を目指す。

■最終結果

今回も熱戦だったが、最後は#69「モモヤマレーシングアルト」が逃げ切った勝利。2 位は#93「藤枝マリンダイビングアルト」終盤に他車との接触があったようだが、2 位を確保。

最後まで熾烈だった表彰台争いは 2 秒強の差で#28「KHK VIVIO」に軍配、惜しくも#330「DIXCEL コンパノミラ」は 4 位。

5 位には#82「東海☆麗神愚 KTM カプチーノ」、一時はトラブルに見舞われた#112「白須賀会カプチーノ」は 6 位でしっかりとゴールまで走りきり全車完走。

■総評

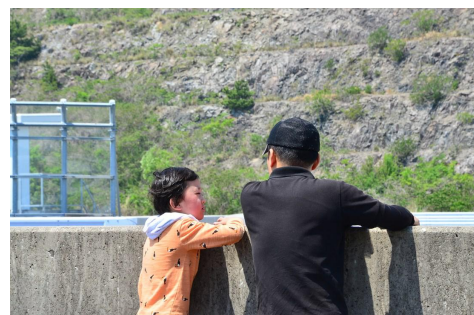
トップ 4 の接戦が見ごたえのあった開幕戦、まずは#69「モモヤマレーシングアルト」が 1 勝、幸先の良いスタートとなった。続いては#93「藤枝マリンダイビングアルト」、マシンのには最も初期の年式(縦のドアノブ、個人的には乗っていたこともあり好きです)ながら、2 位。タイトル奪回に向けてまずまずのポジション。今回惜しかったのは#330「DIXCEL コンパノミラ」、いつもならしぶとく表彰台に滑り込むのだが・・・V4 へ向けては試練のスタートか。



カプチーノ対決の結果は #82 が上



途中トラブルにもめげず完走 #112



TC クラス





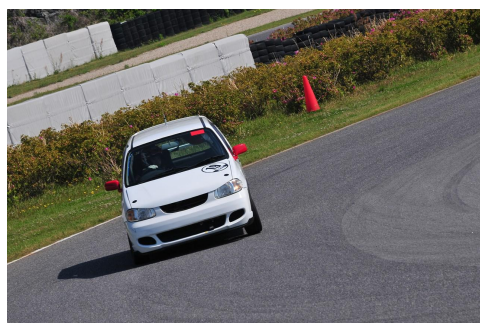
久々の爆走で s 見事勝利 #32



連覇を狙い現王者は 2 位発進 #38



接戦を制して 3 位ゲット #448



表彰台にはわずか 10 秒及ばず #19



速さは抜群だったが… #23

OP クラス (軽NAおよびターボのオープンクラス)

NO と TO が一つになって OP クラスとなった昨年は、NO 出身の#38「デモリッションエグゼ」チームが記念すべき統合チャンピオンとなった。勝因としては TO 出身のチームがリタイヤなどでのノーポイントレースがあったなか、全戦完走、All 表彰台という高い信頼性と 3 勝を挙げる速さを両立したこと。もちろん狙うは OP としての V2 だが、それに待ったをかけるターボ勢 4 チームが K 最速の座をかける。

■予選

予選トップは、ターボ車の #23「Team Jatsun アルト」1' 03.674 で全体の PP 獲得。やはり速さはターボ車、このチームのタイトルへの課題は満点とリタイヤを繰り返す、昨年はその問題も克服されつつある。

予選 2 位 #32「爆走あばれ馬 DXL ミニカ」1' 03.736 と、わずか 0 秒 062 の差でフロントローに並ぶ。

3 位 #38「デモリッションエグゼトウディ」が 1' 05.017、ひとり NA で立ち向かう孤高のチャンピオン。

4 位 #448「スバル東愛知 SHR プレオ」が 1' 05.217、このオフには EG のパワーアップを敢行、新たな速さを得た。

5 位 #19「BRP アルトバンターボ」1' 06.289 が続き、予選総合上位はすべて OP クラス。

■序盤

序盤の速さ比べはターボ車、トップは #32「爆走あばれ馬 DXL ミニカ」。去年から変わった点はこの間に「パワーダウン」と、耐久性と扱いやすさにシフトか？

2 位 #23「Team Jatsun アルト」、去年から入れた赤ラインに★を入りたいとのこと。さあどうなるサーキットの狼。

3 位 #38「デモリッションエグゼトウディ」、こちらはパワーアップを図ってきた EG が今年のポイント。ただテストでは水温に不安との結果…決勝ではどうか。

4 位 #448「スバル東愛知 SHR プレオ」、これまでの自己最高位は 2 位、今回はこれを超えられるか。

5 位 #19「BRP アルトバンターボ」、こちらは昨年第 3 戦以来の優勝を狙う。マシンはセッティングを変更してきたとのことだが、ぶっつけ本番に近い形というのが心配な点。

■中盤

上位を快走していた #23「Team Jatsun アルト」、痛恨のコースアウト！ターン 1 でのオーバーランで SC 導入。大きな損傷は見られず、各部のチェックと砂落としでレース復帰したが、最下位までポジションダウン。

首位は #32「爆走あばれ馬 DXL ミニカ」、2 位には #38「デモリッションエグゼトウディ」が上がってきたぞ。3 位 #19「BRP アルトバンターボ」、こちらも上がってきた。4 位 #448「スバル東愛知 SHR プレオ」の上位陣。ここまでは 1 Lap の差の中に 4 台が入るこれまでにない混戦模様。

■終盤

終盤もトップは #32「爆走あばれ馬 DXL ミニカ」、1 Lap の差で #38「デモリッションエグゼトウディ」が追う、逆転はあるか。3 位表彰台争いも #19「BRP アルトバンターボ」と #448「スバル東愛知 SHR プレオ」は同一周回とこちらも大接戦。

少しでもギャップを縮めたい #23「Team Jatsun アルト」も懸命の追い上げ。

ここまでの混戦は OP クラスになってははじめてのこと、トップを行く #32「爆走あばれ馬 DXL ミニカ」にも油断やミスは許されない。

Race Report

GT-CAR PRODUCE

■最終結果

ガンガン追い上げた#38「デモリッションエグゼトウディ」だったが、58秒ほどおいきれず2位。優勝は最後までトップを守った#32「爆走あばれ馬 DXL ミニカ」のもの。嬉しい嬉しい久しぶりの勝利！

こちらも激しい闘いだった表彰台、#448「スバル東愛知 SHR プレオ」が10秒ほどの差で振り切ったの3位ゲット。

惜しい4位は19「BRP アルトバンターボ」、5位は#23「Team Jatsun アルト」が粘って完走。

■総評

連覇を狙う#38「デモリッションエグゼトウディ」の前に立ちはだかったのは#32「爆走あばれ馬 DXL ミニカ」だった。途中までレースを引っ張った#23「Team Jatsun アルト」を含め速さはやはりターボ車。それに対抗するNAというしびれずK最強決定戦から今年も目が話せない。



OP クラス 爆走さんたちどこですか～ えっ弁当モグモグタイムっすか！？



ってことでなぜかマイクが～



パワーアップの効果大！！



大混戦！！